



### 菜種守の授与

江戸時代の俳人、与謝蕪村が「菜の花や月は東に日は西に」と詠った梅田茶屋町ゆかりの菜の花、また、天神さまの御霊をお宥ね(お菜種)し、年経るごとに天神さまが学徳の神さまへと移ろう縁にもなったという菜の花。菜の花は人々の心を和ませ、丸くするといふチカラがあるといわれます。

そうした故実に由来して、茶屋町の御旅社では「**菜種守(なだねまもり)**」を二月二十五日から四月初旬頃までの期間限定で授与いたしております。イライラを鎮め、荒む心を宥め、気持ちる明るくする事を祈念した開運の御守です。菜の花の咲く時期のみの授与です。

### 厄年の御祈祷

当社では厄年の厄除け祈祷を受け付けております。左表にもあります通り、それぞれ厄年がございますが、特に数え年の**男性四十二才(昭和五十二年生)**、**女性三十三才(昭和六十一年生)**の本厄の方は、大きな厄年となります。

厄除け祈祷はそういった年回りに、災厄が訪れないようにと祈る御祈祷で、一月と二月の時期にお受けになれるのが吉とされています。

当社での御祈祷はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。(初穂料五千元)

- ・御本社(神山町)〇六二六三六一二八八七
- ・御本社(茶屋町)〇六二六三七一一五八六

男			女		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成 7年生(男) 2.4歳(小厄)	平成 6年生(女) 2.5歳(中厄)	平成 5年生(男) 2.6歳(小厄)	昭和 53年生(女) 4.1歳(中厄)	昭和 52年生(男) 4.2歳(大厄)	昭和 51年生(女) 4.3歳(中厄)
昭和 34年生(女) 6.0歳(小厄)	昭和 33年生(男) 6.1歳(中厄)	昭和 32年生(男) 6.2歳(小厄)			

女			男		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成 13年生(女) 1.8歳(小厄)	平成 12年生(男) 1.9歳(中厄)	平成 11年生(男) 2.0歳(小厄)	昭和 62年生(男) 3.2歳(中厄)	昭和 61年生(女) 3.3歳(大厄)	昭和 60年生(男) 3.4歳(中厄)
昭和 58年生(女) 3.6歳(小厄)	昭和 57年生(男) 3.7歳(中厄)	昭和 56年生(男) 3.8歳(小厄)	昭和 34年生(女) 6.0歳(小厄)	昭和 33年生(男) 6.1歳(中厄)	昭和 32年生(男) 6.2歳(小厄)

※厄年の年齢は数え年です(満年齢に一歳足す)。  
※紫〓大厄、黄色〓中厄、白〓小厄

### 今月の暦

#### 【祭礼】

節分祭(三日)：神事のみ 御旅社で福豆授与  
初午祭(七日)：稻荷社縁日 各地の稻荷社で祭礼  
祈年祭(十五日)：神事のみ 一年の豊穰祈願  
梅花祭(廿五日)：神事のみ 天神さまの御命日

#### 【節気】

立春(四日)：春の気が立つ頃  
雨水(十九日)：陽気で雪氷溶けて雨水となる頃  
旧正月(十六日)：春節とも  
冬の土用(一月十七日～二月三日)：土堀りは遠慮

#### 【大安】

二月三日、九日、十五日、二十日、二十六日  
建国記念の日(十一日)、国民の休日(十二日)

### 伊能忠敬 梅田逗留二一〇年

文化五年(一八〇八)二月二十八日。この日、江戸時代の測量家、伊能忠敬が『大日本沿海輿地全図』の調査の一環で、当、網敷天神社に逗留した日から、今月で二一〇年になります。

十七年もの歳月をかけて、日本全国を歩いて測量した伊能忠敬についてはご存じの方も多いと思いますが、大阪の梅田に逗留していた事をご存知の方は少ないのではないのでしょうか。

この伊能忠敬が当宮に逗留したという記録については、**柴山傳左衛門**という人が残した『伊能測量隊員旅中日記』の中に「撰州西成郡北野村網敷天神前から測量を開始」とあり、間違いないように当地に逗留していた事がわかります。

当時の梅田は、遅咲きの梅が春の匂いを伝え、あたりは一面の菜の花畑が広がっていた頃と思われ、そんな田園風景を眺めながら、**能勢街道(西国街道)**を通り、そして淡路、四国の方へと測量に向かわれたものと思われれます。

今でこそ四国までは車で一日で到達出来る距離ですが、当時はもちろん全て徒歩で、しかも伊能忠敬は当時としても高年齢な**五十歳を過ぎてからの測量**でしたので、今考えてみても大変な事業でした。

現代はスマホですぐ地図を調べられますが、そんな地図も全てこうした**先人の努力の積み重ねの上にある事**を忘れずにいたいものです。

### 網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 つなしき 網敷天神社 禰宜(御旅社) 神主  
白江 秀知

